



守りたい 知っておきたい おききたい 助かるときの 地震から。地震から。地震から。

まさか地震が

「地震に備えて！」と言うけれど、今ひとつ危機感が持てない人も多し。地震の被害に実際に遭わなければ、その悲惨さは実感できません。しかし、私たちの暮らす地域には、地震が起きる確率の高い活断層があり、実はとても身近な話なのです。大地震が起きてしまったその時はどうしようか。大切な人を守りたいし、地域の人も助けたい。もちろん自分だって助けたい。多くの人が思う気持ちです。

阪神淡路大震災や新潟県中越地震の際、無事に避難できた人の約75%が地域の人の支援（安否確認や避難支援）を受けたということでした。このことから、日ごろから地域の中で、支援を必要としている人が誰で、どこにいるのかを把握しておくことが大切であることが分かります。地震が起きても被害を最小限に抑えるため、市内各地で自主防災訓練や災害時住民支えあいマップづくり

を通じた共助の活動が進んでいきます。かわった市民の多くは災害に備えた訓練で身近な人との支えあいを実感し、改めて人付き合いの大切さに気付かされました。しかし、私たちの防災対策はまだ十分なものは言えません。いつかやってくる地震災害に屈しないために、それぞれの立場で支えあいの大切さを考えてみましょう。

助けてくれるのは誰

自助 一人ひとりが災害に備えて普段から十分な準備をしておくことが大切です。しかし、個人の力には限界があり、大きな災害にひとり立ち向かうことはできません。**共助** 地域に住む皆さんがお互いに協力しあい、自主的な防災活動を行うことで被害の防止または軽減が図れます。防災力の強化はまさに身近な人との支えあい次第と言えます。**公助** 行政をはじめ防災関係機関は総力をあげて防災活動に取り組みます。しかし、大規模な地震が発生す

れば、道路の寸断、建物の倒壊などにより迅速な対応ができないのも事実です。

地震のこと

糸魚川―静岡構造線断層帯のことをご存じですか。新潟県糸魚川市から大北地域、松本地域、諏訪地域などを通り静岡県にかけて断続的に連なる総延長140～150キロメートルの活断層帯です。

国の地震調査研究推進本部によると、この構造線はマグニチュード8程度の地震が起る可能性が高く、地震発生確率は30年以内で14%と公表されています。この確立は、陸地にある主要な活断層のなかでは最も高いものです。また、地震は千年間隔で繰り返し起きていますが、1、200年前に起きたマグニチュード8の地震以降は巨大地震が発生していません。このことから、地震がいつ起きても不思議ではないと警告が出されています。

知っておきたい地震のこと

「糸魚川―静岡構造線断層帯」
陸地にある主要な活断層の中で地震の起きる確率が最も高い断層帯。
今後30年以内に
マグニチュード8程度の
発生確率は14%

——— 主要活断層



自然災害や事故などの30年発生確率と比較してみると

- 交通事故で負傷 **24%**
- がんで死亡 **6.8%**
- 火災で被害 **1.9%**
- ひったくりで被害 **1.2%**
- 大雨災害で被害 **0.5%**
- 台風災害で被害 **0.48%**
- 交通事故で死亡 **0.2%**
- 航空機事故で死亡 **0.002%**

出展：地震調査研究推進本部

特集◎ 今考えてほしい防災のこと